



～グループ参観～

副園長 奥村 綾

先日グループ参観が終了しました。保護者の皆さんは、幼稚園からのお願いをご理解いただき、空気のような存在になって(透明人間になって!?)見守ってくださっている方が多くいらっしゃいました。中には、子どもの方から近寄ってきて困っておられる方や、つつい子どもの行動に注意や声掛けをってしまった方などもいらっしゃったと思いますが、ほとんどの方が、幼稚園での子ども達の普段の姿をご覧いただけたのではないかと思います。今年度は、いちにち先生や保育参観など実施できず、新年度当初の子ども達の遊びの様子をご覧いただけなかったため、クラスだよりやコーナー環境の配信等でお伝えさせていただいていましたが、継続して遊び込んできた過程やさまざまな『育ち』『学び』などの視点でご覧いただくのは難しかったかもしれません。

子ども達は、さまざまな活動を通して、それぞれ考えながら行動する姿が見られます。その遊びや活動の中には子どもの『育ちの芽』をたくさん見つけることができます。

うきうきタイムの子ども達の姿からもその様子が伺えます。

土を掘っている男の子達がいました。傍に言って「大きな穴掘れたねー」と声を掛けると「穴じゃないよ。虫歯建設株式会社。奥歯を虫歯にしてるの!」(※虫歯建設株式会社という歌があります)バケツにいっぱい土を、チョコレートやビスケットに見立てて穴に入れ、スコップで掘り続け虫歯にしていました。そのあと、段ボールを用意すると、別のクラスの子がやってきて、歯ブラシを作り歯磨きを始めました。水を汲んできて「はい!!ぐちゅぐちゅうがい」と穴の中に水を入れて楽しんでいました。子どもの発想にはいつも驚かされます。

子どもカーニバルで委員の方がくださった『わくわくトンネル』。すみれ組の子ども達が継続して遊んでいます。廊下の壁には、「すみれぐみでわくわくとんねるやってます」と張り紙があったり、「わくわくトンネルへどうぞー」と呼び込みをしている子がいたりします。すみれ組に行くと、「今はいっぱいです。」とドアを閉める子がいるかと思えば、「次の2組どうぞ」「次の3組どうぞ」と、どんどん案内するので、中が満員になっていることもありました。前日には椅子でトンネルを作っていましたが、通りにくい事に気づき、次の日に行くと段ボールでトンネルを作り、迷路もできていて遊びがどんどん広がっています。無料チケットを配っている子も見かけましたよ。

園庭の土の状態をよく観察していて、ミニダム(雨水をためるタンク)の水や水道の水をバケツやたらいに汲み、きれいな泥団子が作れる場所まで水を運んで、土にかけて泥団子を作っている子がいたり、その場所を他の子に教えてあげたりする姿も見られます。泥団子に付けるさら砂集めも盛り上がっています。

～友達とのかかわりから育つ「心」～

部屋から飛び出したり、みんなが作っている積木を倒したり、砂で作った山を踏んで壊したりする行動が見られた年少組のAくん。クラスの子も達は、Aくんが来ると「あっちに行って!」「邪魔せんといて!」と、輪に入れないようにしていました。また、部屋の中で何かが壊れていると「Aくんがやった」と言う子がいたり、「またAくんや」とAくんのせいにしたりする傾向が見られました。

先生達は、その都度、クラスのみみんながAくんのことを理解できるように『行動の意味』『口ではまだうまく言えないけど本当はみんなと一緒に遊びたいんじゃないか』『みんなに言われてAくんはどんな気持ちになるか』などAくんの行動から気持ちを代弁し、Aくんが片付けが早くできた時や、いつもより早く保育室に入れた時には、みんなの前で思い切りAくんを認めたり、みんなの輪に入れるように配慮したりして、Aくんについて子ども達に伝え続けました。ある日園庭で、子ども達が、遊具の上からAくんに手を振って「おーい、Aくーん、大好きだよー」「前は戦いとくして、叩いたり怒ったりしたけどほんとは大好きなんだよー」「一緒に遊ぼーね」「Aくんかわいいー」と呼び掛けていました。言われたAくんはニコーと笑ってとても嬉しそうに手を振り返していました。今では、集団遊びの際に、「Aくんここに入りー」と遊びに誘ったり、Aくんのことを心配して先生に伝えたりする姿が見られます。

れんげ組とつくし組の子ども達と同じ場所で穴を掘って遊んでいたのですが、「先に僕たちがここにおってんで！」「違うで僕たちやで！」と場所の取り合いが始まりました。「じゃあじゃんけんで決めよ！」年少組総勢11名のじゃんけんを想像してみてください。「じゃんけんホイ！」「あいこでしょ」「あいこでしょ」「あいこでしょ」「あいこでしょ」「あいこでしょ」…。そのうち「そんなんしてたらこうしたるわ！」と指でデコピンをする真似をする子「俺の家にはな、ながーい剣があるねんで??」という子など、もう何のもめ事が分からなくなっていました。なかなか収まりそうになかったのですが、危険な場面ではなかったので状況をそっと見守りました。結局その場は解決しないまま終わりましたが、子ども達は、全く気にする様子もなくその場を離れ、別々のところで遊び出しました。

年長組の子が年少組の子と鬼ごっこをした時には、「年長はケンケンで逃げよう！」と提案したり、鬼の数を調整したりして、うまく異年齢と関わっている子もいますが、「ちっさい組と鬼ごっこしてもおもないわ。年長だけでしょー」という子もいます。

このように日々のやり取りや経験を通して、時には、辛い思いや悔しい思いをしたり、うまくいかなくて自信を失くしたり、いじけて活動から外れてみたりと、いろいろな負の側面の経験をすることも、子どもの育ちにとって大切な経験で、心をより豊かにし、『協調性』や『社会性』なども獲得していきます。

各クラスの子どもの育ちについては、2学期末に予定しています、『クラスの保育活動報告』でお伝えしますので、ぜひご参加ください。

～もうすぐクリスマス～

幼稚園では、例年、12月に全園児がホールに集まり、クリスマス会を行っていました。ホールに電飾やツリーを飾り、クリスマスの由来の話を聞いたり、先生の合奏を聴きながらみんなで歌を歌ったり、サンタさんにいろいろな質問をしたりして楽しいひと時を過ごしていました。また毎年、各学年に合ったプレゼントを先生が考え、一人に一つ、サンタさんからプレゼントしてもらっていました。

今年度、人数的に全園児がホールに集まることができないため、いつも一緒に過ごしているクラスでクリスマス会を行うことになりました。クリスマスカラーの毛糸を編んだり、リースやツリーを作ったりしながら、子ども達はクリスマスを心待ちにしています。一人にひとつのプレゼントも子ども達にとって楽しみの一つだと思いますが、クラスの友達や先生と一緒に過ごす時間を大切にしたい、一緒に過ごせることを幸せに感じて欲しいという想いから、今クラスで一番必要な物は何か？友達と一緒に楽しく過ごせるものは何か？などみんなで考え、サンタさんをお願いすることにしました。先生や友達と共に過ごす楽しい時間が、子ども達にとって最高のクリスマスプレゼントとなるように、また、サンタさんから必要なものをプレゼントしてもらうことで、物を大切にしたい気持ちが育って欲しいなと思います。